

「在宅医療の現況と今後の展望」
～ノーマライゼーションノまちづくりを目指して～

医療法人 福嶋医院
福嶋啓祐

日本人の平均寿命は、平成 18 年（2006 年）男 79.00 年、女 85.81 年で男女とも世界有数の長寿国となっている。また、少子高齢社会を形成し、今後さらに高齢化率は上昇を続ける（図 1、図 2）。

私は平成 4 年に郷里寄島で父の医院を継承し今日まで在宅医療を実践してきた。寄島町（平成 18 年 3 月に浅口市に合併）は、人口 6670 人、高齢化率 29.9%（平成 18 年 3 月）の高齢化の進んだ漁業の町である。特に後期高齢者、独居高齢者が多い地域である。

保健・医療・福祉に力を入れており、特に介護保険サービスは質・量ともに県内トップクラスである（図 3）。

私たちは「皆に優しく、共に楽しく」を基本理念に、ノーマライゼーションのまちづくりを目指して活動してきた。地域住民の在宅生活の支援を主眼に環境を整備してきた（図 4）。

無床診療所（在宅療養支援診療所）を核に、地域の多機関、多職種と協力してプライマリヘルスケア・ターミナルケアに努力してきた。外来患者 100～120 人/日、往診及び訪問診療 3～4 件/日、併設介護老人保健施設（入所定員 80 名）の運営、有料老人ホーム（2 カ所、総定員 78 名）での診療（4 回/月）を非常勤医師 4 名と共に行い、併設訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、居宅介護支援事業所、老健の通所リハビリテーション部門（定員 80 名）のコ・メディカルスタッフと共に活動している。平成 12 年に介護保険が導入され、介護支援専門員が配置されるようになり彼らが多職種間の連携・調整役に力を注ぐようになった。未だ、医療系と福祉系の連携は充分とはいえないが年と共に充実してきた。彼らとの協働で、皆が住み慣れた地域で最期まで生活できる環境づくり、在宅での看取りを心がけてきた。

しかし過疎化、核家族化による家族介護力の劣化は否めず、当院における在宅での看取り数は減少傾向にあり、特に平成 17 年以降は著減した。

平成 17 年・18 年は国が在宅医療、在宅での看取りを推し進めた年であるが、地域社会は在宅死を受け入れられる環境にはなかった（図 5）。

介護老人保健施設（老健）での死亡者数も平成 17 年以降減少している。私たちの老健では平成 17 年より終末期の高齢者を在宅へ帰し、数日間の家族での看取りの実施をすすめたが、それができる家庭環境は乏しくなっていた（図 6）。

附設託児所の乳幼児、障害者（児）デイ・サービスの利用者と高齢者、さらにリハビリテーション学院の学生も交えてノーマライゼーションのまちづくりを目指しているが、最後まで在宅での生活を継続できる幸せな人たちは年々少なくなっている。平成 17 年にオープンした介護付き有料老人ホームは、早期に満室となり、入居待機者も多い。

今後、私たちは高齢者のための新しい住まい、コミュニティーの再構築について研究を重ね、21 世紀の家族、21 世紀の社会を考えていきたい。高齢者の尊厳を守り、高齢者を尊敬する社会づくりを目指し、地域住民の生活と命を守る姿勢を貫いて地域社会を支えきりたい。

しかし今、地域の看護師、介護士は尊い奉仕の精神をもってしても労働が厳しく、報酬がそれに見合わない現状にある。離職率も高く、労働環境は悪化の一途にある。このままでは地域の医療・福祉は崩壊する。社会保障は国家の責務である。診療報酬、介護報酬を引き上げた上で、サービスの充実を図り、利用者の生活の質の向上を目指すとともに、看護師、介護士が生活に窮することなく奉仕の理想に邁進できる環境を整備すべきである。

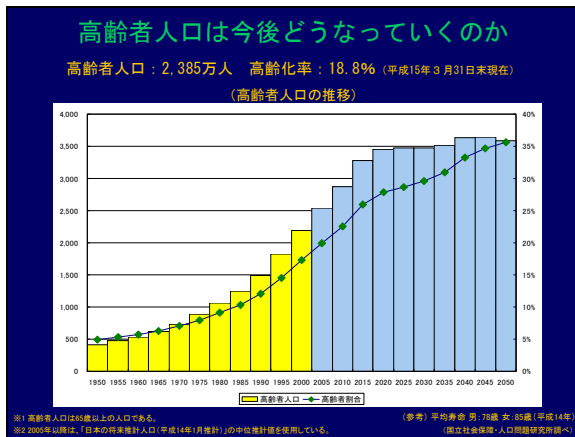


図 1

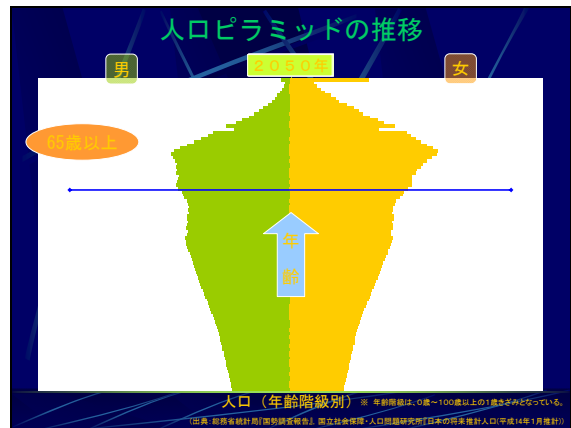


図 2

寄島町の医療・福祉施設

医療機関 3医院 (有床診療所1、無床診療所2)
 2歯科医院

訪問看護ステーション 1
 訪問介護ステーション 2
 通所介護施設 2 (定員35名・18名)
 通所リハビリテーション施設 1 (定員80名)
 居宅介護支援事業所 3
 痴呆対応型共同生活介護(グループホーム) 1 (定員9名)
 一般病床 1 (定員 19名)
 介護老人保健施設 1 (定員 80名)

図 3

医療法人 福嶋医院 事業組織

(日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設群)

- 福嶋医院 (在宅療養支援診療所・無床)
- ドルフィン訪問看護ステーション (平成8年9月1日)
- 老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター (平成10年11月1日)
- 老人保健施設いるかの家リハビリテーションセンター附設保育園
- ドルフィンホームヘルパーステーション (平成11年2月10日)
- 居宅介護支援事業所いるか (平成11年11月1日)
- 痴呆対応型共同生活介護 グループホームいるかの家 (平成13年1月22日)
- 知的障害者デイサービス事業所 生活支援センター いるかの家 (平成13年5月1日)
- 学校法人 福嶋学園 福嶋リハビリテーション学院 (平成15年4月1日)

有限会社 ドルフィンエイド
 デイサービスセンター 健康・美容サロンドルフィン倉敷
 介護付き有料老人ホーム ドルフィン笠岡(定員30名)
 ドルフィン玉島 (定員48名)

図 4

当院における在宅死亡者数 (平成15年10月6日現在)

平成5年6月～平成11年5月(72ヶ月)
 66名(0.916/月)

平成12年4月～平成19年8月(89ヶ月)
 62名(0.696/月)

平成12年(4月～12月)	7名	平成16年	11名
平成13年	11名	平成17年	8名
平成14年	8名	平成18年	3名
平成15年	10名	平成19年(8月まで)	4名

図 5

老健死亡者数

平成11年1月～平成19年9月(83ヶ月) 32名(0.29/月)

年別内訳 死亡者数(うち癌によるもの)

平成11年	1名
平成12年	0名
平成13年	1名
平成14年	4名
平成15年	7名
平成16年	9名 (1名)
平成17年	5名
平成18年	2名
平成19年	3名 (1名)
合計32名	

図 6